

北海道企業局工業用水道事業経営評価委員会議事要旨

〔 日時：平成24年4月18日（水）14:00～15:43
場所：企業局大会議室 〕

（開催要領）

- 1 開催日時：平成24年4月18日（水）14:00～15:43
- 2 開催場所：北海道企業局第会議室（道庁別館10階）
- 3 出席委員（五十音順）：

委員	安達 陽子	安達中小企業診断士事務所	所長
委員	原田 実	株式会社北海道二十一世紀総合研究所	取締役業務総括担当
委員	平池 暁	北海道経済連合会	総括部長
委員長	湊 孝康	NPO法人遺伝子栄養学研究所	理事
委員	村上 淳	株式会社道友エージェンシー	代表取締役社長

（次第）

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 道営工業用水道を取り巻く状況について
 - (2) 平成24年度当初予算について
 - (3) 需要開拓の取組状況について
- 3 その他
- 4 閉会

【意見等要旨】

（事務局より資料の説明後、委員から次のとおり意見等があった。）

- 1 道営工業用水道を取り巻く状況について
 - 企業局が、防災・危機管理のマニュアルを作成する際には、民間でも参考になるような形で内容を詰めていただき、それを公表して評価を得るという部分を率先して進めてほしい。
 - 国等において、ユーザーサイドに何らかのインセンティブになるような仕組み、需要開拓する側を応援する制度が創設されれば良いと思う。
 - 北海道企業局経営計画の概要において、取り巻く環境の変化により経済情勢が低迷していると記述されているが、その後、日本は復興需要で景気が上向いている部分もあり、このような状況を加味して取り組んだ方が良いのではないか。
- 2 平成24年度当初予算について
 - 各自治体や経済団体による企業誘致の際には、石狩湾新港地域工業用水道の良い面も宣伝して、プラスにしていくという努力が必要。
- 3 需要開拓の取組状況について
 - 需要開拓においては、トップセールスの役割が重要であり、企業誘致とパッケージで取り組む必要がある。
 - 職員が企画した工業用水PR用パンフレットの作成については評価するが、文字色と背景色とのコントラストが低い箇所が一部見受けられ、写真がぼやけたイメージになったり文字が見づらい箇所がある。この種の媒体は、イメージが大切であるので、需要開拓の効果が上がるよう、増刷時には改善した方が良い。プロの意見を取り入れるなども検討してはどうか。
 - 道営工業用水道事業の広報誌「工水だより 第7号（平成24年5月15日発行）」の巻末に、当委員会委員が提案をした、「ご意見をお聞かせください。工業用水の新しい呼び名を検討中です。」というフレーズが記載された。委員会での意見が、具現化することは意義がある。
 - 工業用水道のキャラクターを募集・決定したが、以前のマークより親しみやすく、PR面での費用対効果も高かった。
 - 潜在的な工業用水需要の把握及び需要拡大に向けた取組の一環として、企業信用調査機関への委託による訪問調査を実施しているが、「あまり関心がない」という主旨の回答が多かった。これに対し、どのように関心を引くかという検討をした方が良いのではないか。
 - 職員がそれぞれの部署において力を発揮することによって、総合的に難局を打開する力になるのではないかと思う。我々応援団としても、積極的に協力するので、大きな声を出して外部に援助・協力を求めている。